

倉敷まちなか建築ギャラリー 2021

倉敷の町は、今も魅力的な生活の場として生き続ける。
近代、現代と時代が変わる中で倉敷の町が大切にしてきたものは何か。

倉敷出身の建築家・浦辺鎮太郎の「壁庇(かべびさし)」
という特徴的な形と、大原総一郎との深い関わりの中で
つくられた作品を通じて、町の在り方を考えてみたい。

「そのヒルヴェルス市庁舎の写真を仕事場に掲げながら、浦辺は杓子定規なモダニズムの建築とは一線を画す作品を手がけ続けた。例えば、倉敷国際ホテル(1963年)の「江戸の蔵」を現代建築に憑依させた窓まわりのディテールは、土地の文脈の存在を実感させ、浦辺の繊細な技量と豪胆な造形の底力を実感させる。丹下健三(1913-2005年)の旧倉敷市庁舎が「正倉院」風の板壁をコンクリートの外壁に映したのとは明らかに異なる、量塊感を伴った日本の美がそこにあった。ある意味、ヒルヴェルス市庁舎に通じるモダニズムの美学は、おくびにも出さず浦辺は晩年まで倉敷らしさを追求し続けたとあってよい。」
(建築評論家・松葉一清「市民のための建築を求めて」より引用)

2021.11.18(THU)~12.01(WED)

9:00~17:00 入場料無料

※最終日12月1日(水)のみ、13時までの展示となります。

あちてらす倉敷南館2F あちてらすぽっと

※倉敷駅より南に歩いて5分ほどのところにあります。

© Forward Stroke inc.



展示作品を含む54箇所の詳しい倉敷まちなか建築情報は、倉敷市が新たにリリース予定の「倉敷まちあるきマップ」でご覧いただくことができます。

倉敷市在住の岡本直樹氏の描いた1963年と2005年の鳥瞰絵図を見比べながら、一緒に倉敷市の魅力を再発見していきましょう。

New Release !!

倉敷まちあるきマップ



scan me !!

<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/kuraaruki>

